

令和6年度 瑞浪市子ども発達支援センター運営委員会 会議録 (要旨)

1. 日 時 令和7年2月10日(月) 午前10時00分から午前11時30分まで
2. 場 所 瑞浪市保健センター3階大会議室
3. 出席者 江畑委員、鈴木委員、水野委員、堀部委員、堀田委員、加藤委員  
事務局 瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと 加藤事務局長、酒井管理者、小木曾  
相談員  
こども家庭課 藤本課長、正木補佐、小木曾補佐、井篁  
傍聴者 なし

4. 会議録(要旨)

- 1) 開会
- 2) こども家庭課長あいさつ
- 3) 出席委員数の報告  
6名中6名の出席により会議が成立
- 4) 委員自己紹介
- 5) 委員長選出  
中京学院大学 准教授 江畑 慎吾 様
- 6) 委員長あいさつ  
委員長 江畑と申します。よろしくお願ひいたします。

7) 議事(1)「瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと」について

資料1に基づいて説明

質疑

- 委員長 非常勤職員の配置についてどのように人員配置をしているか。  
事務局 曜日ごとでの人員配置をしている。

議事(2) 令和6年度 活動報告について

資料2に基づいて説明

質疑

- 委員 利用者が増えているので仕方ないが、支援と支援の間で時間をとれないか。  
何かあったときに先生とお話しする時間があるといいのではないか。今年度支援学校の見学会を早めたことについては通常の学校と同じ時期に見学することで保護者としても考えやすく選びやすいと感じた。  
今年度より市内にできた他事業所と併用している子も多いが事業所間で共有してこどもの支援につなげていってほしい。来年度より放課後等デイサービスを利用する予定だが、説明会などが無い。早い段階では申込ができないが見通しを持てるような支援があると保護者としてありがたい。事業所が少なくなり

利用したい人が利用したい日数使えていないと感じる。夏休みは開始時刻が遅いため仕事の始業に間に合わず今後の仕事について検討しないといけない。学童との連携などで支援を受けられると働く親として役立つのではないか。事業所に対して市として提供場所の支援などを行ってほしい。

事務局 通所支援に関して今年度支援数を増加したことにもない区切りの時間が少なくご迷惑をおかけしております。保護者さんの話をききたいがなかなか時間をとれない状況で来年度からあらかじめお話があると分かっている方には別の時間を設定するなどして話をきけるようにしていきたい。切替えの時間については5分ほど余裕が持てるよう検討したい。保護者の見学会は来年度年中さんの保護者を対象に冬に実施予定となっている。他事業所との連携については他事業所の先生に来ていただいたり、相談室を通して情報を把握しているところもあるが、さらに交流していけるとよいと思う。放課後等デイサービスについて、1年生からのサービス利用に関して不安を感じている方がたくさんいらっしゃるが、地域の事情を踏まえるとこの事業所は利用できるというのは伝えづらいが保護者さんが安心して1年生を迎えられよう努めていきたい。

事務局 夏休みの利用時間については特別支援学校のPTAの方からも似たような意見をうかがっている。市として要望があることは伝えることはできるが事業所の判断になるので難しくなっている。学童との連携についても利用者の増加や支援員の不足などにより実現が難しくなっている。今の利用者の話がきける情報共有の場があると保護者の不安軽減になるため検討していきたい。新しい事業所に対しての支援については現状特にないが事業所からの相談があればできる限りの支援をしていきたい。

委員 小学校3年生から4年生へのつなぎ方は具体的にどうされているか。

事務局 他の事業所と異なり、幼児療育を卒業したお子さんが安定的に学校に移行していくことを目的として、目安を3年生としている。学校への引継ぎについては学校に見学に行ったり、療育相談を利用させていただくなどして対応している。幼稚園、ぽけっとと保健センター3つの連携を密にしていくことが大事になってくるのではないか。就学先を決める際に保護者さんの話をきくだけ、学校を見に行くだけでは決めるのは難しいと感じたがぽけっととの連携により、幼稚園でもそれを踏まえて保護者さんと接することができた。個別の連絡ではなくぽけっとと各幼稚園が一斉に話し合う場があるとよいのではないか。

事務局 これまで電話にてその都度連携をしている。年1回の園訪問の際に個別支援計画を持って支援方法の共有などを行っている。園長会での話し合いを検討したい。

連携については限られた時間と人員の中でどうやりくりするかが課題となっ

委員長 てくる。データ上で個票のようなものを作成して幼稚園小学校中学校の連携をはかれるシステムがあるといいのではないか。

### 議事（3）令和7年度 活動計画について

資料3に基づいて悦明

質疑

委員 放課後等デイサービスについての保護者向けの勉強会があるとよいのではないか。実際に利用している保護者の声がきけるとよいのではないか。

事務局 夏休みの時期に親の会も含めて検討していきたい。

委員長 放課後等デイサービス事業所をはじめ医療機関など幼稚園や学校では紹介しづらい面もあるため市との連携を踏まえて情報公開していけるといいのではないか。

委員 お子さんの進学にあたって特別支援学級の設置については複雑な条件があるなかで個別に密な支援を提供いただいたので、今後もそういったつながりを大切にしていきたい。

委員長 グループ支援についてはどのようにされているか。

事務局 ぼけっとでは個のとらえを大切にしているため、それに加えてのグループ支援と考えている。ルールを緩やかにした小集団の遊びになっていて順番を待ったり友達の様子をみるなど基本的なことを学べるように取り組んでいる。子どもたちに負担が少ないように友達と遊ぶことを楽しむ時間にしたい。短時間での設定にして子どもたちができたことを細やかにみてほめて集団への適応意欲を育てていきたい。お子さん一人ひとりに職員がつく形で5,6人でのグループ活動となっている。

委員長 個があつての集団ではあるため方向性が間違っているわけではないが、職員一人当たりの対応人数が多いためグループでの療育を定期的に取り入れることで子どもたちの発達に加えて先生方の負担軽減にもつながるのではないか。3歳以上児になると集団への不適合や困り感がより顕著に出てくる中で個別については環境を整えることである程度落ち着いて活動できるお子さんが増えると思われるが、集団適応については困り感が増えてくるのは間違いないので個別と集団のバランスを踏まえて検討していただくとよいのではないか。

委員 健康づくり課は1歳半健診が最初の健診となるが3歳児健診で要観察となりぼけっとへの相談となるよりも1歳半健診で要観察になった際に相談となる方がよいと思われるが家庭で過ごす分にはお母さんの困り感が少ないため相談に行ってもらえない。1歳半健診の際にぼけっととのつながりができるようにしていきたい。

- 委員長 家庭で過ごす分には余程の発達の遅れがなければ困り感を感じない人も多いと思われるのでそこをどう早期につなげていくか検討いただきたい。
- 委員 半田市では保育園に小学校の特別支援学級のようなものを設置して近くの保育園に発達が遅れているお子さんのフォローアップで通う事業を実施している。内容としては集団に入ることが難しいお子さんに対してその学齢でやることを少人数で実施している。市でもご検討いただきたい。1歳半健診でのぼけっとへのつなぎとして口頭だけの案内では保護者もハードルが高いためその場で予約をとれるようにするとよいのではないか。
- 委員長 幼稚園での特別支援学級については東濃だと中津川市が先行してやっているので瑞浪市でも検討していただくとよいのではないか。
- 委員 ペアレントトレーニングについて圏域発達支援障害センターでも県の啓発支援としてあがってきていて中津川市は実績があるので瑞浪市でも取り組んでいただくとよいのではないか。県内で「サポートブック」といわれるものがあり進学にあたり途切れのない支援が受けられるような内容になっているので瑞浪市でも作成されたらどうか。また県でペアレントメンター制度を推奨していて保護者の経験談などがきける制度となっているので活用していただくとよいのではないか。
- 委員 子育て支援センターはセンター職員と子育ての悩みを話したり保護者さん同士で共有したりする場所となっていて瑞浪市では年齢で分けられているが中津川市では双子が対象の日であったり、大人数が苦手なお子さんが行く日を設けていてそういった行きやすくなる工夫があるとよいのではないか。子育て支援センターも連携のひとつに加われるとよいのではないか。
- 事務局 乳幼児健診で経過観察となったお子さんをすぐにぼけっとにつなぐということはお母さんにとってもハードルが高いので切れ目のない支援が提供できるように「どんぐりころころ」という相談の教室のようなものを今年度より設けている。定着していない部分もあるが活用いただけるようなものにしていきたい。
- 委員長 皆様からのご意見をいただいて、ぼけっとが中核を担うのは間違いないが市全体でどう捉え、ぼけっとがどう関わっていくかが課題であり、包括的な支援が今後求められるため引き続き連携をすすめていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

#### 議事（4）その他

質疑なし

#### 8) 閉会